

協働推進のための各課業務課題の調査結果

令和6年4月4日 公開

担当課	各課で抱えている行政課題や業務課題 協働の取組によるメリットを享受できそうな業務課題	備考
青少年課	<p>「未就学児親子の遊び場・交流の場が足りない」「各地域に未就学児親子の遊び場が欲しい」という声が寄せられていますが、希望通りに行政だけで対応することは困難な状況です。市内には、未就学児親子の遊び場が点在していますが、利用できる日時に制限があったり、体を思いぎり動かして遊ぶには狭かったりなどの課題もあります。遊び場の提供には、①物理的な場所の確保 と ②支援できる人の配置 が必要ですが、協働して取り組むことで地域力向上にもつながることを期待します。</p>	
生活福祉課	<p>一社)ふらっとカフェ鎌倉と市で「フードバンクかまくら」を運営していくなかで、 ①寄付された食料を保管しておく倉庫が手狭になっていることから、移転先を探している ②食料の管理や配達を手伝ってくれるマンパワーが不足している ③寄付いただける食料を充実させたい(量・種類)</p>	
生活福祉課	<p>民生委員児童委員のなり手を増やしたい。 本市では定員226人のところ、8人が欠員となっているほか、令和7年の一斉改選では75歳の定年により退任される方が70人程度になる見込みである。 専業主婦の減少や定年退職の年齢が上昇していることなどを背景として、地域でボランティア活動を担える方を探していくのが難しい状況になってきている。</p>	
生活福祉課	<p>誰もが気軽に行けるような、地域食堂・サロン・多世代交流の場などの「地域の居場所」を増やし、人と地域がつながり、孤独・孤立に陥らないようにしたい。また、地域にある居場所の情報を共有できるようにしたい。</p>	
生活福祉課	<p>ひきこもりの方やすく働くことが難しい方が、ボランティアや就労体験ができるところを増やしたい。</p>	

【注意事項】

- つながる鎌倉エール事業協働コースは、市民活動団体等から公益的な事業を提案いただく制度ですので、本調査に掲載されていない内容の事業企画もこれまでどおり提案いただけます。
- 本調査の回答に基づく提案がなされたとしても、必ずしも協働事業として採択されるわけではありません。
協働は事業の目的ではなく、課題解決の手段であることから、NPOセンターと地域のつながり課がメンターとなって市の担当課と提案団体の間に入り、事業内容やプレゼンへの進出などについて協議をおこない、相互理解を図りながら調整をさせていただきます。